Japanese Red Cross Society NEWS

赤十字 NEWS

http://www.jrc.or.jp

May 2019
NO.948
5

令和元年5月1日（毎月1日発行）
赤十字新聞　第948号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

赤十字運動月間CM「時代を越えて救う」篇より

昔も今も日本赤十字社は変わらぬ理念で人道的な使命を果たすため、国内外でさまざまな活動を行っています。
５月の“赤十字運動月間”では、全国の皆様に赤十字への理解を深めていただくキャンペーンを実施します。

CONTENTS

FEATURE__2・3
天皇皇后両陛下が「平成の災害と赤十字」展をご鑑賞

TOPICS__4＿5
赤井十子さんのワクワク赤十字体験！

AREA NEWS__6・7
全国／群馬／京都／福井／長崎

WORLD NEWS__8
モザンビークサイクロン被害救援活動
１枚の写真から

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL：03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和元年5月1日（毎月1日発行） 第948号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

天皇皇后両陛下（現上皇・現上皇后）が「平成の災害と赤十字」展をご鑑賞

見送りの日赤職員に笑顔でお応えになる両陛下

天皇皇后両陛下が３月29日、日本赤十字社本社を訪れ、「平成の災害と赤十字」展を鑑賞されました。

この写真展は天皇陛下の御在位30年を記念して開催され、雲仙・普賢岳噴火や、阪神・淡路大震災、東日本大震災といった大規模自然災害時の日本赤十字社の救護活動を時系列に写真パネルで紹介したもので（展示は３月末に終了）、全国の日赤支部・施設から取り寄せた資料とパネルなど94点を展示しました。

両陛下は展示物を熱心に見て回られ、段ボールベッドの実物をご覧になった皇后陛下は「高くなっていて、座れますね。脚のお悪い方にも良いですね」と被災者のお気持ちになってお話をされた場面も。皇后陛下からは最後に「たくさんの仕事をありがとうございました」とのお言葉を賜りました。

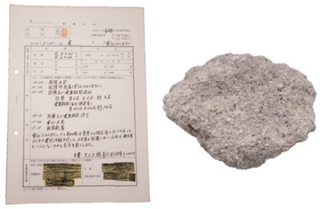
多くの災害に見舞われた平成の時代。両陛下は全国の被災地を訪れ、被災された方々に寄り添い、苦境に立たされた方々の心の支えとなられました。変わらぬ両陛下のお心を感じられたこの度の行幸啓を仰ぎ、日赤も気持ちを新たに、しかし理念は変わることなく、苦しむ人々に寄り添い続けてまいります。

「両陛下のお出ましに同行して」 救護・福祉部次長（当時） 白土直樹

私の説明を熱心にお聞きいただき、また、災害の現場に数多く足を運ばれた両陛下ならではの、たくさんのご質問も頂戴しました。お言葉をいただくなかで、各地の被災者に対して今もなお、お気持ちを寄せ続けておられることが伝わってまいりました。天皇陛下からは高齢社会における一人一人のニーズに合わせた救護や地域コミュニティーでの防災・減災の取り組みの重要性についてのお言葉を、皇后陛下からは災害多発時代における日本赤十字社の職員や奉仕団等によるたゆまぬ救護活動に対するねぎらいと感謝のお言葉をそれぞれ頂戴し、赤十字運動への大いなる慈愛と期待をお持ちになられていることに感激しました。

▼ 展示品の一例と両陛下のお言葉

雲仙・普賢岳噴火「噴石と救援日誌」

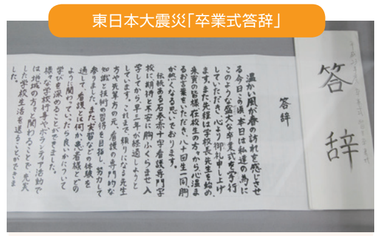


天皇陛下は入り口すぐに展示された雲仙・普賢岳の噴石の実物をご覧になり、「雲仙だね。噴石で亡くなった方はいますか？」とご質問。救援日誌を熱心にご覧になりました。

阪神・淡路大震災「精神ケア」

阪神・淡路大震災では、日赤から981班の救護班を派遣し、日赤が現在「こころのケア」と称している精神ケアを取り組む契機となったことなどをご説明。皇后陛下はパネルを見上げ「大変な火災でしたね」と表情を曇らせる一場面も。

東日本大震災「卒業式答辞」



石巻赤十字看護専門学校生徒の答辞に、天皇陛下が強い関心を示され、案内の白土次長が「この生徒は震災の経験によって一人一人求めているものは違う、その人の気持ちを大切にした看護をしようと決意したそうです」と伝えると深くうなずかれました。

【石巻赤十字看護専門学校の奮闘】

東日本大震災の発生時、授業中の石巻赤十字看護専門学校に津波が押し寄せ、教員と生徒は近隣の小学校に避難しました。しかしそこには看護を必要とする多数の避難者が。孤立した小学校は食料や水も不足し、避難者が寒さに凍えて弱っていく中、看護活動に奮闘した教員と生徒たち。卒業式での「答辞」には、震災後３日３晩続いた看護の経験を振り返り、看護師として巣立つ学生の熱い思いが込められていました。（写真は津波被害を受けた石巻赤十字看護専門学校の校舎内）

熊本地震「弾性ストッキング」

頻繁に起こる余震の影響で避難者が増え、エコノミークラス症候群が多発した熊本地震。予防のための弾性ストッキングに直に触れられた皇后陛下は「履くだけではなく、履いて運動するのが良いのですね」と使用方法にも納得されたご様子でした。

防災教育

自助共助の力を高めるために作成された児童向け防災カルタの説明を受け、天皇陛下は「こういったことは大切なことですね。カルタなどは何気ないことでも記憶に残りますからね。良いと思います」とおっしゃられました。

▼ 災害に関する行幸啓 天皇皇后両陛下は、平成の災害で被災した多くの土地へ足をお運びになりました。

犠牲者を悼み、被災者を慰め、救援活動に携わる人々を励まされてきた両陛下。被災地へのご訪問では、被災者に同じ目線で話し掛けられるお姿が大きな話題となりました。

写真提供：共同通信社

東日本大震災

阪神・淡路大震災

雲仙・普賢岳噴火

※宮内庁ホームページ「行幸啓など（国内のお出まし）」より

平成３年７月10日	長崎県	雲仙・普賢岳噴火に伴う被災地お見舞い
平成５年７月27日	北海道	北海道南西沖地震に伴う被災地お見舞い
平成７年１月31日	兵庫県	阪神・淡路大震災被災地お見舞い
平成７年11月10～11日	長崎県	雲仙・普賢岳噴火災害復興状況ご視察
平成11年８月17～20日	北海道	北海道南西沖地震災害復興状況ご視察
平成11年９月13日	福島県	豪雨災害復興状況ご視察
平成11年９月13～14日	栃木県	豪雨災害復興状況ご視察
平成13年４月23～26日	兵庫県	阪神・淡路大震災復興状況ご視察
平成15年７月１日	北海道	有珠山噴火災害復興状況ご視察
平成16年11月６日	新潟県	新潟県中越地震災害に伴う被災地お見舞い
平成17年１月16～18日	兵庫県	阪神・淡路大震災 10周年のつどい
平成19年８月８日	新潟県	新潟県中越沖地震災害に伴う被災地お見舞い
平成19年10月29～31日	福岡県	福岡県西方沖地震被災者ご訪問
平成23年４月８日	埼玉県	東日本大震災に伴う避難者をお見舞い（旧騎西高等学校）
平成23年４月14日	千葉県	東日本大震災に伴う被災地（千葉県旭市）お見舞い
平成23年４月22日	茨城県	東日本大震災に伴う被災地お見舞い
平成23年４月27日	宮城県	東日本大震災に伴う被災地お見舞い
平成23年５月６日	岩手県	東日本大震災に伴う被災地お見舞い
平成23年５月11日	福島県	東日本大震災に伴う被災地お見舞い
平成23年９月27日	千葉県	ご視察（被災企業の受け入れ支援を行った工場）
平成24年５月12～13日	宮城県	東日本大震災被災者ご訪問
平成24年７月19日	長野県	長野県北部地震被災者ご訪問
平成24年10月13日	福島県	東日本大震災に伴う被災地ご訪問
平成25年７月４～５日	岩手県	東日本大震災に伴う被災地ご訪問
平成26年７月22～24日	宮城県	東日本大震災復興状況ご視察
平成26年11月20日	埼玉県	大雪による被害の復興状況ご視察
平成26年12月３～４日	広島県	平成26年８月豪雨による被災地お見舞い
平成27年１月16日～17日	兵庫県	1.17のつどい－阪神・淡路大震災20年追悼式典－ご臨席
平成27年３月13～15日	宮城県	東日本大震災復興状況ご視察
平成27年10月１日	茨城県	平成27年９月関東・東北豪雨による被災地お見舞い
平成28年３月16日	福島県	東日本大震災復興状況ご視察
平成28年３月16～18日	宮城県	東日本大震災復興状況ご視察
平成28年５月19日	熊本県	熊本地震による被災地お見舞い
平成29年10月27日	福岡県	平成29年７月九州北部豪雨による被災地お見舞い
平成29年10月27日	大分県	平成29年７月九州北部豪雨による被災地お見舞い
平成30年９月14日	岡山県	平成30年７月豪雨災害による被災地お見舞い
平成30年９月21日	広島県	平成30年７月豪雨災害による被災地お見舞い
平成30年９月21日	愛媛県	平成30年７月豪雨災害による被災地お見舞い
平成30年11月15日	北海道	北海道胆振東部地震による被災地お見舞い

令和元年5月1日（毎月1日発行） 第948号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

赤井十子さんのワクワク赤十字体験！

あかいとおこ
赤井十子さん。困っている人の役に立ちたい40代のママ。1年間のボランティア経験を経て、日本赤十字社の特命職員に！さまざまな活動をわかりやすく体験リポートします。

わたしたちの生活を支えるのね

ボランティアと支える

赤十字奉仕団と共に地域をサポート。高齢者支援活動や災害救護、防災活動などを行います。

社会的な支援が必要な人を支える

児童、高齢者、障害者福祉施設を運営し、利用者の生活支援を行います。

ひとを育てる！

看護師を育成する

赤十字看護専門学校・看護大学を運営。広く社会に貢献できる質の高い看護師を育成します。

青少年を育成する

青少年赤十字に加盟する全国の学校や幼稚園、保育所で「気づき、考え、実行する」力を育みます。

いのちを救うための活動

災害から救う

国内災害救護による被災者のケア、全国での防災教育事業による災害への備えを行います。

海外で救う

災害や紛争などで苦しむ人びとのために、救援や復興支援、病気の予防を行います。

救急法で救う

とっさの場合の手当てなど健康安全に関する知識の啓発・普及を行います。

病気から救う

全国91の赤十字病院は、地域の生活を支え、災害時は医療拠点として備えます。

献血で救う

輸血を必要とする患者さんのために献血を受け入れ、血液製剤の製造を行い、医療機関へ届けます。

次号より、「赤井十子さんのワクワク赤十字体験」が連載スタートします。お楽しみに！

令和元年5月1日（毎月1日発行） 第948号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第948号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 令和元年5月1日（毎月1日発行）

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

全国

防災・減災プロジェクト ～私たちは、忘れない。～

３月は全国で防災イベントを開催！

東日本大震災から8年、防災・減災の取り組みは今も各地で継続的に実施されています。

日赤群馬県支部は、3月7日に「被災地支部災害対策本部運営・支援訓練」を、3月11日に「赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会」を相次いで開催。研修会ではローリングストックを活用した炊き出しレシピを紹介しました。

埼玉県赤十字血液センターは3月10日に「親子で学ぼう　今みんなができること！　防災・減災・献血」を主催。西日本豪雨で災害派遣を経験した埼玉県支部の職員と被災地出身のタレントのトークで、備えの重要性を来場者に伝えました。

長野県支部は3月10日に防災・減災イベントを開催。会場では赤十字救護隊員の指導による救急法の体験、非常食や災害備蓄品の展示などを実施しました。また、長野県内の赤十字奉仕団が推進する「包装食袋」を使った炊き出しの様子が、2月16日放送のテレビ番組「減災家族　災害に備える～食～」で紹介されました。

香川県支部は3月10日に「防災とボランティアのつどい～親子で学ぼう防災、広げよう減災～」を実施。小さい子どもをもつ若年層の家族に向けて防災・減災をアピールしました。

高知県支部は3月10日にイベント「3.11防災・減災プロジェクト」を開催。「備える」をテーマとした災害時の活動記録や応急手当ての講習、非常持ち出し品を展示する様子が夕方のテレビニュースで放送されました。

全国各地の防災イベントに加えて、幼児向けのイラスト教材を使った取り組みも実施中。全国の幼稚園や保育所など1600カ所に配布されたこの教材は日赤のホームページからもダウンロードできます。

群馬県

参加者からは「備蓄の習慣の大切さを再認識できた」の声が

埼玉県

被災地を支援した職員の生々しいリポートを来場者たちが傾聴

長野県

テレビ取材を受け、災害への食の備えを説明する赤十字奉仕団

香川県

応急手当ての体験講習に目を輝かせる子どもたち

高知県

身近にあるバンダナを使った応急手当てなどの講習も実施

さまざまな危険を発見する間違い探し形式の幼児向け防災教材。この教材のPDFが、日赤ホームページでご覧いただけます

3.11 RC JAPAN 私たちは、忘れない。

防災・減災プロジェクトへ多くの企業・団体様からご協賛をいただきました。

ご協力いただいたプロジェクトパートナーについてはこちら

※順不同

ゴールドパートナー

株式会社理舎 / GOLD FASTATE / 株式会社関西通商 / AKTIO グループ / 伊藤園 / 株式会社東商テクノ / GAIA / シマホ Simaho HOME'S / 日清オイリオ NISSHIN oilio / 株式会社織戸組 / OHATA KENSETSU / samco PARTNERS IN PROGRESS / 東海日動パートナーズ東北 / Serverworks / SECOM / わんわん / ONWARD / 株式会社キョーワ / TERUMO / ゆで太郎 / 株式会社桜井鉄工所 / ニチレイ / 株式会社七護エステート / 福寿園 / 東京海上日動 / JXTGホールディングス / Realation / kihara / 石見銀山建設株式会社 / あいおいニッセイ同和損保 MS&AD INSURANCE GROUP / ALTIA グループ / FUJITA Daiwa House Group / NADIX株式会社 / 株式会社アイビックス / Johnson & Johnson FAMILY OF COMPANIES IN JAPAN / intage group Know today, Power tomorrow / 久留米運送株式会社 / 株式会社目黒開発設計 / HARMONY PLUS / infocom / 201 CLEANER / Nestlé / HUMAN NET 株式会社ヒューマンネット

シルバーパートナー

MDS 松竜産業株式会社 / NAITO ARCHITECTS / 日輪工業株式会社 / アルファー食品株式会社 / 株式会社デザオ建設 / 寺院専門 祇園古刹 / JOBISHA / ルスツリゾート / 赤村 KIMURA / KIYOKAWA Plating Technology / 京都銀行 / it's game / ナネスト / 昭和リース / 高橋建設株式会社 / (有)オキタ設備 / 茶寮 都路里 / 鉄実興行株式会社 / YOKOHAMA / 株式会社聖の剛 / MIZUHO / クラミューセイモア株式会社 / WORLD EYE / Noma 野間産業 / T-Next 吉田建設株式会社 / 三和産業株式会社 / ㈱三桝嘉七商店 / 株式会社昭和堂 / ㈱東京都路里

群馬県

「JRC部に、新入生を迎えたい」～魅力的なポスターを作ろう！～

3月2日、群馬県での「青少年赤十字（JRC）高校生リーダー研修会」に26校107人の生徒が参加、近年最多人数での開催となりました。グループワークでは新入生向けにポスターを作成。多くの１年生にJRCの活動を知ってもらい、入部へつなげたい！と、活動意義などを盛り込んだ作品は力作ぞろい。参加者は「他者を思いやる活動をしていると思う」とJRCの魅力を再確認しました。

ポスター作成を通じて、JRCとしての自覚と誇りを新たにした生徒たち

京都府

選手とボランティアが心通わせる「全国車いす駅伝」大会が開催

3月9日・10日に京都市で「天皇盃 第30回全国車いす駅伝競走大会」が開催されました。全国から集まった25チーム、約140人の選手たちが熱戦を繰り広げる中、選手のサポートを行ったのが赤十字京都ユースを中心とするボランティアです。京都ユースは共に選手をサポートするボランティアの募集や養成も行っており、今年は京都ユースの他に72人のボランティアも加わりました。

各地から到着する選手の受け入れや大会当日のサポートなどを行った

今もなお人々に寄り添う「昭憲皇太后基金」

毎年4月11日のご命日にあわせて発表されている「昭憲皇太后基金」。1912年、昭憲皇太后が国際赤十字の平時事業を奨励するために寄贈された10万円（現在の３億5000万円相当）を基に創設された世界最古の開発協力基金です。今年は各国赤十字・赤新月社から47件の支援要請に対し、国際赤十字・赤新月社連盟にて配分委員会が行われ、14社の事業へ合計約4400万円を拠出（累計額は約15億8400万円）の配分が決定しました。今年度の支援詳細は日赤ホームページをご覧ください。

←日赤のサイトでご覧ください。

昭憲皇太后。107年前、時代を先取りした「平時の人道支援」という御心に、現在も深い敬意と感謝が寄せられています

福井県

支援の輪に赤十字奉仕団が参画 余剰米を生活困窮者へ無料で送付

福井県の越前市赤十字奉仕団は「越前市わかちあいプロジェクト」に参画しています。この取り組みは、農家から募った余剰米を生活困窮者のもとに無料で郵送するというもの。越前市やJA越前たけふなど5者による連携協定を結んだ奉仕団は、農家から寄せられた余剰米の仕分けを担当。昨年10月に始まった同プロジェクトを通じて21世帯68人への支援につながっています。

集まった余剰米を奉仕団のメンバーが５kgの小袋に仕分け

長崎県

半世紀にわたる取り組みを新時代へ 100回目を迎えた「町ぐるみ献血」

長崎県諫早市には、50年以上「町ぐるみ献血」に取り組む団体があります。1966年に「町ぐるみ献血」を始めた天満町大昭会は公民館で「町ぐるみ献血」を主催し、企業や住民に参加を呼び掛けてきました。1968年の献血運動推進全国大会で厚生大臣表彰を受賞。半世紀にわたる活動は3月6日に100回目を迎え、献血した人数も延べ9000人以上になりました。

町ぐるみで100回目の献血を行った天満町大昭会の方々

常任理事会開催報告

平成31年４月19日、本社において平成31年度第１回の常任理事会が開催されました。
今回の常任理事会は年度初めでもあり、付議事項はありませんでしたが、赤十字運動月間広報、予算の補正にかかる３月分の社長専決事項について、それぞれ報告し、「赤十字この１年」を上映しました。

赤十字の活動に「寄付」で参加できます！

あなたの寄付でできること

安眠セット（１人分）2000円

日本赤十字社は災害発生後、救援物資をすぐに被災者の方に届けられるよう、日頃からたくさんの毛布や安眠セット、緊急セットを備蓄しています。

活動資金へのご協力方法

主に以下の方法で寄付を受け付けています。

インターネットで / 口座振替で / お近くの赤十字窓口で

日本赤十字社への寄付は税制上の優遇措置が受けられます。

赤十字運動月間

５月は赤十字運動月間です。赤十字への理解を深めていただくため、CMやポスター、SNSなどで広くアピールします。時代を超えて救うことを続ける救護員の姿が印象的なショートムービーもぜひご覧ください。

「赤十字運動月間」動画はこちらからどうぞ

ご支援（ご寄付）方法については日赤のウェブサイトでご案内しています。ぜひご覧ください。

日本赤十字社　寄付　検索

www.jrc.or.jp/contribute/

present プレゼント

「アンリー・デュナン伝」&「赤十字の歩き方」のセット 10名さまに

赤十字への理解をより一層深めていただくために赤十字の創始者の伝記「アンリー・デュナン伝」とイタリア・スイスの赤十字ゆかりの地を紹介する「赤十字の歩き方」をセットでプレゼント！

発行：赤十字人道センター

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。
①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢
⑤赤十字 NEWS５月号を手にされた場所
（例／献血ルーム）
⑥５月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？
（いくつでも）
A. 表紙
B. 天皇皇后両陛下が「平成の災害と赤十字」展をご鑑賞
C. ワクワク赤十字体験！
D. エリアニュース　E. プレゼント
F. ワールドニュース　G. １枚の写真から
⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

郵送／〒105-8521
東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字 NEWS ５月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785 メール／koho@jrc.or.jp
（件名「赤十字 NEWS ５月号プレゼント係」）
５月31日（金）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

令和元年5月1日（毎月1日発行） 第948号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

WORLD NEWS

モザンビークサイクロン被害救援活動
【モザンビーク共和国】

アクセスの悪い被災地にいち早く入った赤十字。救援活動とともにニーズ調査も進めている

大型サイクロンがアフリカ南部を直撃 モザンビークに日赤医師を派遣

被災者が185万人を超える中、現地では衛生状況が著しく悪化、コレラなどの感染症対策や保健衛生面の支援が喫緊の課題に。

土砂崩れや洪水でインフラが壊滅 加えて急拡大する感染症の流行

３月14日にサイクロン「アイダイ」が直撃したモザンビーク共和国第４の都市・ベイラ（人口約50万人）。国際連合人道問題調整事務所による発表では、このサイクロンによる死者の数は603人、家屋の損壊は約24万戸に上っています（４月８日現在）。

土砂崩れや洪水に襲われた被災地では、道路や通信などのインフラが大きなダメージを受け、被災状況の把握すら困難な中、モザンビーク赤十字社は各国の赤十字社とともに緊急対応チームを現地に派遣しました。スタッフたちは寸断された道路を徒歩などで乗り越え、救援活動を実施しています。

モザンビークの保健省は被災地でコレラの感染が急速に広まっていることを発表。４月８日までに把握したコレラ患者の総数は約5000人に達し、すでに死者も出ています。洪水などによって住居を失った人々はもちろん、かろうじて住居の被害を免れた住民も、汚染された水を生活用水として使わざるを得ません。水処理システムを含む保健衛生面での復興は、被災した人々の暮らしに直結する喫緊の課題となっているのです。

都市部のベイラではその9割が被災し、人々は避難を余儀なくされている

こうした事態を受けて、日赤は現地の救援活動を支援するべく1000万円の緊急資金の拠出を決定。さらに、コレラやマラリアへの対応をサポートするため、感染症を専門とする日本赤十字社和歌山医療センターの古宮伸洋医師を被災地に派遣しています。日赤は今後もモザンビーク赤十字社や国際赤十字と連携しながら被災者への支援を行っていきます。

モザンビークサイクロン被害 救援金受付

サイクロンの被災者を救うため 温かい支援をお願いします

2019年 モザンビークサイクロン救援金

2019年３月25日（月）から 2019年６月30日（日）まで

詳細は日赤のホームページをご覧ください

2019年モザンビーク サイクロン救援金 検索

http://www.jrc.or.jp/contribute/help/2019/

1枚の写真から
picture tells stories

ルーブル美術館前にある老舗ホテル「レジーナ」。その外観は100年前と変わらない ©IFRC

100年前も今も理念は揺るがず

各国赤十字・赤新月社の国際的連合体である国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）が５月５日に創設100周年を迎えます。

1919年、フランスのレジーナホテルに集まったのは、日本、イギリス、アメリカ、イタリア、フランスの赤十字社の代表者たち。当時の赤十字活動は戦時救護が目的でしたが、彼らが目指したのは、平時における健康増進や疾病予防、苦痛の軽減を図る活動のための国際的組織「赤十字社連盟」（後に現在の名称に変更）の創設でした。赤十字の創始者アンリー・デュナンが唱えた「傷ついた人々を敵味方の区別なく救うこと」という理念を平時の活動にまで広げ、５カ国の提唱で始まった国際赤十字・赤新月社のネットワークは、現在、世界191の国と地域に広がっています。

IFRC100周年ミニ展示が2019年５月８日（水）から2019年5月31日（金）まで赤十字情報プラザ（港区芝大門1-1-3 日本赤十字社本社１階）で開催されます。 詳細は日赤のホームページをご覧ください。